

事務事業名	県畜産協会参画事業		所属部局	農林商工部		単位番号	6025			
			所属課室	農林振興課		課長名	野田栄志			
	☐ 実施計画事業		所属担当	農業振興担当		担当者名	折居慎也			
基本政策	基本計画体系	Ⅱ にぎわいと活力あふれる都市づくり	予算科目	会計 01	名称 一般	款 06	項 01	目 04	細目 02	細々目 002
政策		07 農林水産業の振興	事業区分	☐ 国の制度による義務的事業 ☐ 施設等維持管理事業						
施策	12 生産を支える基盤の整備充実			☐ 県の制度による義務的事業 ☐ 補助金交付事業						
				☐ 市の制度による義務的事業 ☒ その他の事業						
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返（開始年度 年度）		法令根拠	なし						
	☐ 期間限定複数年度（ 年度）									
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 ・県西部家畜保健衛生所及び山梨県畜産協会との連携により、衛生指導を中心に市内畜産農家の健全な育成を図る		事業費の主な内訳（22年度）							
			項目(細節)	金額(千円)	項目(細節)	金額(千円)				
			法令外負担金	38						
							計	38		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	畜産農家の巡回指導
23年度活動予定	畜産農家の巡回指導
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
市内の畜産農家	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
家畜の健康状態が良くなる	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
畜産業における衛生管理や新しい飼育技術を習得。 生産を支える基盤の整備充実	

⇒ ⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
巡回指導実施回数	回
⇒ ⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
畜産農家数	戸
⇒ ⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
指導により健康状態が良くなったと答えた畜産農家の割合	%
⇒ ⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
「指導で学んだことを取入れた」と答えた畜産農家の割合	%

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	38	38	38	38	38	38	
	事業費計 (A)		千円	38	38	38	38	38	38	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1		
		延べ業務時間	時間	20	50	20	20	20	20		
		人件費計 (B)	千円	89	223	79	79	79	79	0	
		(A)+(B)		千円	127	261	117	117	117	0	
活動指標		アイ	回	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		
		イウ									
対象指標		アイ	戸	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0		
		イウ									
成果指標		アイ	%								
		イウ									
上位成果指標		アイ	%								
		イウ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	不明
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	鳥インフルエンザや口蹄疫の発生により畜産農家の危機意識は年々、高まりつつある。防疫対策についてはなお一層の注意が必要である。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	巡回指導時には、口蹄疫に関する質問が多く、防疫に対する質問が多くあった

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	☐ 取り組みしている ⇒【内容！】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	西部家畜保健所とともに市内の畜産農家の巡回指導を年1回は必ず行っている
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	なし

事務事業名	県畜産協会参画事業	所属部	農林商工部	所属課	農林振興課
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 畜産農家の口蹄疫等についての関心は高く、防疫の面からも巡回指導は必要と思われる。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 口蹄疫や鳥インフルエンザなど予測できないことの発生に対処していくには行政の支援は必要である
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 畜産農家巡回指導の方法など事業は円滑に進められており、これにより本市内の家畜農家は安心して生産活動をしている。このため、県の専門家の指導による管理体制は必要である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 年1回の巡回指導は、畜産農家の現状を知るうえで、欠かせないことであり、事業の方法としては、現状が適切と考える。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 畜産農家の実態調査を年1回行い、廃止した場合には農家の詳細な実態が分からなくなるため ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 畜産農家の状況を市としても把握する必要があるため。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 事業費については県畜産協会負担金のため、コストについては変わらず。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方・見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 必要量の時間で効率的に業務を行っている
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 市内の畜産農家全戸を巡回しているため、公平公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	今後も、不測の事態に対応できるよう地区農家と西部家畜保健所と連携強化し対応していく

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②		成果優先度評価結果																						
③		対象外																						
		コスト削減優先度評価結果																						
		対象外																						